

英語で内容的にまとまりのある文章を書かせるための指導はどうあればよいか（第二年次） —書くための準備活動の充実と指導過程の工夫を通して—

長期研究員 鈴木 信司

I 研究の趣旨

本県の中学生の課題である、英語を「書くこと」の力を向上させるため、昨年度は、パラグラフ・ライティングを第2学年の指導に導入した。英語のパラグラフは、文章の読み手の理解を促すため、文章の内容がよくつながり、パラグラフ全体がまとまりのある一貫した内容になる。発信型の英語力を身に付けることに対応するため、学習指導要領にも「文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」が新たに追加されており、英語のパラグラフの構成を意識させながら書く指導を行っていく必要があると思われる。

教師が与えたモデルとなる表現を活用して英文を作成した昨年度の段階から、自分の発想を生かして、自分で考えながら英文を作成する段階にどう引き上げていくかが第二年次の課題となり、以下の研究仮説のもと研究を進めた。

II 研究の概要

1 研究仮説

パラグラフ・ライティングの指導において、以下の視点に基づいた手立てを講じれば、生徒が、思考力を働かせながら内容的にまとまりのある文章を書くことができるようになるであろう。

【視点1】 マッピングなどの、書くための準備活動の充実

【視点2】 自分の発想を生かした英文作成を可能にする指導過程の工夫

2 授業実践について

5月から11月までの約半年間、第3学年68名（2学級）に対して、学校と生徒の実態に合わせて、教科書にある五つの書くことの題材の学習時期を入れ替え、マッピング→アウトライン作成→下書き→書き直し・清書という一連の流れがそれぞれ2時間で終了するよう授業を進めた。

3 書くための準備活動の充実について

自分の発想を生かしながら段階的にアウトライン作成へつなげることができるよう、マッピングを行う際には、書くためのアイデアを生み出す段階と、生み出したアイデアを分類・整理してアウトラインの作成につなげていく段階の、二つの段階を設定した。自分のアイデアを分類・整理する際、下記のような関係（「おおまかな内容」と「より詳しい内容」）を意識しながら分類したり、分かりやすく相手に伝えるためにはどう構成したらよいか思考力を働かせながら整理したりした。

アイデアの分類 ~Writing Plus2 レポート~	
制服を着ていればどこの学校か分かる	(おおまかな内容)
学校によって制服の柄などが違うので学校の区別がつく	(より詳しい内容)

マッピングを五つの題材で継続して行ったことにより、文章を作成する際、書くためのアイデアを生み出す方法を理解し、スムーズに英文を書き出すことが可能になった。また、アイデアを生み出した後、そのアイデアを分類・整理しながら読み手にとって理解しやすい文章構成になるように、思考力を働かせてアウトラインを作成することができた。

4 指導過程の工夫について

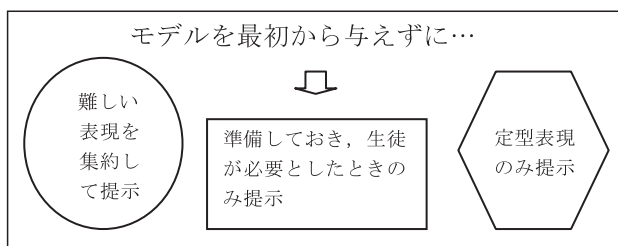
(1) アウトラインを作成して下書きを行う段階

日本語でアウトラインを作成する際、以下のように日本語表現を見直す活動を行った。

普段使っている日本語	見直した日本語
「将来、～高校に入りたい」 ・ 主語がない。 (日本語は主語を省略することが多い) ・ 既習の英語で表現できない日本語を使う。 (使っている日本語と学習している英語のレベルのズレ)	「私は将来、～高校に行きたい」 ・ 主語を付け足す。 ・ 既習の英語で表現できるよう言い換える。

また、教師から提示される英文作成のためのモデ

ルとなる表現に頼らないで、自分の力で考えながら既習の英語で表現することができるよう、以下のよう
に与える量を減らす工夫をした。



(2) フィードバックを生かして書き直しを行う段階

英語での下書きの後、教師からフィードバックを与える際、改善が必要な場所にアンダーラインを引いたり、内容の改善につながるようなコメントを与えたりした。正解をすぐに示すのではなく、ヒントを示して考えさせ、フィードバックの内容を生かして、既習事項を活用し、思考力を働かせながら書き直しを行うことができるよう工夫した。以下は、教師からのフィードバックを生かして書き直し、文章の内容のつながりやまとまりをよりよく構築することができた例である。

Writing Plus 1 手紙 下書きの内容
September 19

Dear Ms. Suzuki _____
How are you? I'm ~. Do me remember me? Thanks to your help, I enjoyed my elementary school life. I canud make many memories. They are my treasure. My junior high school life is very fun. I want to be a fire fitere. I want to help many people. For my future I'll study very hard and I hope to go to Shirakawa High School. Please take care of yourself.
Sincerely yours,

※下線は、改善に向け教師が示したヒント

下書きの内容に対する教師からのフィードバックの一部	
2	<input checked="" type="checkbox"/> 書き出しと最後の一言が忘れずに書かれている。
3	<input type="checkbox"/> 接続詞や代名詞を効果的に使っていて文と文とのつながりがよい。

They are my treasure. → 打さな表現を使えどかできました。下書き、すばらしい仕上がりです。どの部分をさらに充実させるとお世話になった先生に気持ちが行わるか考えてみよう。

フィードバックを生かして書き直した英文の一部

My junior high school life is very fun.
I joined base ball club.
I have practiced base ball so hard for three years. I want to be a fire man

※下線は、英文の内容を充実させるなど、改善した部分

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

(1) アンケートの結果からも、アイデアを生み出し、文章の組み立てを考えるために、マッピングの取組みが有効であることが分かる(図1)。

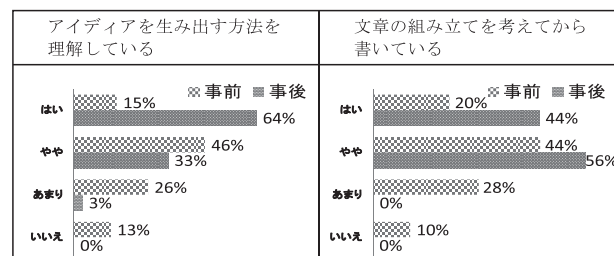


図1 マッピングに関するアンケートの結果

(2) アウトラインを日本語で組み立てる際、日本語の表現を見直し、英文を作成する際に提示するモデルの量を徐々に減らした結果、辞書や教師から提示された表現に頼らず、既習事項を活用し、思考力を働かせながら自分の力で表現しようとする姿が見られるようになった。

(3) 下書きに対して、綴りや文法だけでなく文章の内容についてもフィードバックを与え、自分の力で考えて書き直すことができるようにしたことで、パラグラフの重要な要素である、文章の内容のつながりのよさや内容全体の一貫性を構築することに対する意識を高めることができた。そして、それらの要素を含む英文を作成する生徒が増えた。以下は、「給食と弁当のどちらがよいか」というテーマにおける、作文の変容である(図2)。平均を見ると、語や文の数だけでなく、自分の主張の根拠を示し、意見に説得力を持たせるための理由を表す文も増加し、多くの生徒の英文が質、量ともに向上したことが分かる。

時期 \ 項目	語数	英文数	理由文数
事前 (5月)	23.0	3.3	1.3
事後 (11月)	50.9	6.2	2.0

図2 事前・事後テストの変容(平均値)

2 課題

アウトプットの結果を重視する綴りや文法の正確性を求める指導と、その過程を重視するパラグラフライティングの指導を相互補完的に行うことで、「書くこと」の指導をより効果的なものになりたい。